



学校法人 玉田学園

第Ⅱ期中期実行計画

2024 - 2027



INDEX

■学校法人玉田学園 第Ⅱ期中期実行計画の策定にあたって……………02

理事長メッセージ

学校法人玉田学園 理事長 中村 忠司

学長メッセージ

神戸常盤大学 学長 濱田 道夫

校長メッセージ

神戸常盤女子高等学校 校長 友井 基浩

■学校法人玉田学園 第Ⅱ期中期実行計画……………04

■神戸常盤大学 第Ⅱ期中期実行計画……………05

○第二次イノベーション

○教育分野 ○研究分野

○社会貢献分野 ○大学運営分野

■神戸常盤女子高等学校 第Ⅱ期中期実行計画……………09





学校法人玉田学園
理事長 中村 忠司

学校法人玉田学園の歴史は、1908（明治 41）年、校祖・玉田貞也による家政女学校設立から始まりました。その生まれは、市井の人々が少しずつの金品を寄付しあい、自分たちの子女が通う学校の設立を目指した、庶民の善意と熱意によるものでした。爾来 116 年、原点である庶民の実学の精神、満ち溢れる温かい心を忘るべからず、「実学教育」と「人間愛の教育」を堅持しながら、現在では神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、神戸常盤女子高等学校、神戸常盤大学附属幼稚園からなる学園へと成長しました。

今日の私学を取り巻く経営環境は、Society5.0 の到来や 18 歳人口の減少等により、厳しい現実と直面しています。本学園も例にもれず、生き残りをかけた経営戦略について、早急に検討を始めなければなりません。第 1 期中期実行計画（2020-2023）では、建学の精神に基づいた人材養成を目指し、学園全体が一体となって、その具現化に努めてきたところです。今回の第 2 期中期実行計画（2024-2027）では、これから到来する困難な時代に備え、学園運営のさらなる強化を図っていきます。

大学は、保健科学部において診療放射線学科の新規開設や口腔保健学科の 4 年制大学化が順調に進み、時代の要請に応え得る医療系大学として、その基礎が概ね固まりました。

2025（令和 7）年度には、基軸である看護学科を保健科学部から看護学部へ改組し、医療系大学としてのさらなる発展を目指します。一方、教育学部については、全国的にも志願者数が激減しており、定員未充足の問題は、極めて深刻なものと受け止めています。これに対し、一大学の力で解決するには限界を迎えており、他の養成校や職能団体等と連携・協働体制をとり、新たな打開策を講じていくことが急務と考えています。

高等学校は、近年共学化が進む中でも、家政女学校の時代から変わらぬ女子教育を貫いてきました。新しい時代の女子教育は、「進学の扉を開く」ことから始めます。2024（令和 6）年度はコース編成の改革を含む「第 1 期改革プロジェクト」への着手、2025（令和 7）年度には「第 2 期改革プロジェクト」として、女子教育の土台となる特別カリキュラムの導入を予定しています。

幼稚園は、園児の定員割れが常態化しており、本学園の重要な経営課題と認識しています。しかし、脆弱な立場に見える幼稚園も角度を変えれば、学園の中に園児がいる、子どもがいることは、少子化社会にあって貴重なことである、とみえ方も違ってきます。「医療と教育を標榜する大学」の附属幼稚園としての役割を時流の波間からみだし、希少性を高めていくことで、この難局を乗り越えていきたいと考えています。

2018（平成 30）年 11 月に中央教育審議会から「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が発表されました。今や、20 年先を見据えた戦略を描いていくことが重要です。第 2 期中期実行計画では、『学園将来ビジョン 2040』の検討を進めます。2040 年を迎える時、『社会から求められる魅力ある学園』であるよう、第 2 期中期実行計画の目標達成に向け、学園全体が有機的連携を図りながら、全力で取り組んでいく所存です。

今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学長メッセージ



神戸常盤大学
学長 濱田 道夫

第Ⅰ期の中期実行計画の策定から4年が経ちました。この間に大学をめぐる状況は大きく変わりました。18歳人口の減少は、多くの大学にさまざまな形で影響をおよぼし、その深刻さは年々増えています。中期計画の策定とその実現に向けた行動は、本学においてもこれまで以上に重要な仕事となりました。神戸常盤大学のガバナンス・コードに則り、第二次イノベーションとして中期実行計画を策定しましたのでご覧ください。

教育、研究、社会貢献、大学運営において、第Ⅰ期から発展的に継承すべき課題もあります。教育の質保証、研究および地域連携への取り組みなどです。これに加え第Ⅱ期ではとくに学生支援を計画全体の大きな柱といたします。キャリア支援、学修支援を含めこれまで以上に学生支援を充実させますが、そのためにも保護者、後援会、同窓会そして系列高校との連携を強化し、ともに学生を育てるという姿勢を明確にする必要があります。

学修支援に関しては、本学独自のテーラーメイド教育を充実させること、言い換えれば多様な学習メニューを準備することを心がけました。ラーニング・コモンズを設け、分野を越えた学びの場、さらには国際理解の場とします。また卒業生を含め、社会人の学び直しを支援すること、いわゆるリカレント教育は、広く大学の社会的責務となりつつありますが、実学重視の本学ならではのプランをリエゾン・モデルとして計画しています。

学生にとって面倒見のよい大学をつくること、これこそが将来へとつながる最良の道と確信しています。

校長メッセージ



神戸常盤女子高等学校
校長 友井 基浩

国際化や情報化の進展に伴い社会構造が大きく変化し、現代社会は複雑化しています。「正解のない時代」ともいわれ、既知の解法だけでは対応できない社会となっています。こうした時代にあって教育分野においても「学び」の質的転換が求められています。数値で測れる知的学力や専門知識に加えて、粘り強く考え抜く力、仲間と協働して取り組む力や姿勢、そして、新たな価値を創造して行く力が問われています。

他方で、15歳人口の減少により私立学校を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。2040年には、県内の中学校卒業生数が、現在の公立高校の定員数とほぼ同数の約32,000人と予測され、各学校間の競争が激しくなっています。

こうした情勢のなか、中期計画を策定し、これに基づき具体的な行動計画を推し進めることは喫緊の課題となっています。第2期中期実行計画では、こうした諸課題に怯むことなく正面から向き合い、そして、乗り越えていく行動計画を示しました。本校がこれまで大切に培ってきた教育理念や女子校としてのレジリエンスを育む教育は、色褪せるところか時代の要請に応えるものです。そこに確信を持ち、新しい時代に対応した新しい学びの扉を開いていく所存です。

1.法人ガバナンスの強化

- ①理事会・評議員会・監事の建設的協働・相互牽制の確立
- ②中期実行計画の点検・評価
- ③SD研修の実施(理事・監事・評議員・法人本部職員)
- ④内部質保証システムの維持向上

2.継続性を備えた安定的財務基盤の確立

- ①中期実行計画に紐づいた財務計画の策定
- ②学生生徒納付金収入の安定確保
- ③収入の多角化
- ④長期的視点に立った戦略的支出の維持強化

3.組織体制の整備

- ①第二次イノベーションの推進
- ②諸規程等の整備
- ③DXの支援

4.学園将来ビジョン2040の検討

- ①時代の要請に応える学園運営
- ②外部団体等との連携の推進および拡充
- ③併設校との連携強化
- ④更なる社会貢献活動の充実

5.「ときわの森」の整備

- ①多様な生物の生息・生育環境として整え豊かな森へ
- ②プロムナードを整備し、学生・生徒・園児の憩い・学びの場の創出

1. 学生支援の充実

- ①学修支援体制の充実
- ②学生満足度を高めるための取組
- ③各種資格取得支援の実施
- ④正課外活動の充実

2. 国家試験、就職支援対策の充実

- ①国家試験対策の充実
- ②学生の希望を叶える就職支援の充実
- ③低学年からのキャリアビジョンの育成

3. 卒業生・保護者との連携強化

- ①卒業生との連携強化のための施策の充実
- ②保護者との連携強化のための施策の充実

4. ときわラーニング・コモンズ(仮称)の推進

- ①自学自修のみならず学問の垣根を越えた学びの場を創出
- ②学生の国際的な感覚の涵養を目的とする場を創出





1.教育の質保証の推進

- ①三つの方針を踏まえた学修支援体制の確立
- ②GPA制度の有効活用
- ③自己評価の取り入れた主体的な学修の促進
- ④FDの推進

2.魅力・特色のある教育の充実

- ①テーラーメイド教育の充実
- ②ときわコンピテンシーの育成
- ③リエゾンモデルの推進
- ④学科横断型(基盤、専門)教育の推進
- ⑤リメディアル教育の検討
- ⑥キャリア教育の充実
- ⑦国家試験対策、各種資格取得支援の充実
- ⑧防災教育の推進
- ⑨リカレント教育の実施
- ⑩海外研修制度の充実

3.教育環境の整備充実

- ①ときわラーニング・コモンズ(仮称)の設置
- ②「ときわの森」の整備
- ③情報環境の整備と学修サポートの充実

研究分野

1. 外部資金の獲得

- ① 科研費等競争的研究費の獲得
- ② 寄附や企業との共同研究による外部資金の獲得

2. 研究支援体制の整備充実

- ① 研究支援体制の整備
- ② 学科横断研究の推進

3. 学内・学外との研究連携推進

- ① 社会課題解決に向けた産学官共同研究
- ② 外部機関との連携研究の推進



社会貢献分野

1. 地域連携の拡充

- ① 地域連携プラットフォーム形成の推進
- ② 地域連携事業の充実
- ③ 教育機関、自治体、企業やその他の団体等との連携の推進

2. 教育研究成果の社会への還元

- ① 教育研究成果の社会への還元
- ② 生涯学習事業の強化および推進

3. ボランティア・地域交流活動の推進

- ① 大学での学びを主体的に活かしたボランティア・地域交流活動の推進

1. 戦略的広報活動の推進

- ① 大学ブランドの向上
- ② 戦略的募集活動の推進
- ③ 高大接続の強化
- ④ SDの推進

2. 内部質保証システムの維持向上

- ① 自己点検・評価による大学運営の改善向上
- ② 第三者評価による大学運営の改善向上
- ③ SDの推進

3. 後援会・同窓会との連携推進

- ① 同窓会活動活性化のための連携強化
- ② 後援会会員の満足度向上

4. 魅力・特色のある大学への取組

- ① 教育効果を高める環境整備の推進
- ② 防災対策を講じたキャンパス環境の整備
- ③ 快適で活気あふれる場所の創出

5. 神戸常盤大学附属ときわ幼稚園とのさらなる連携

- ① 「附属幼稚園」を持つ強みを最大限にアピールする
- ② 「魅力ある施設」としての付加価値を高める
- ③ 教育連携のさらなる推進
- ④ 幼稚園をフィールドとした共同研究の検討

1.個々に最適な学びと協働的な学びの創造

- ①個別対応型学習サポート体制の構築
- ②ICT器機を活用した自主学習環境の整備と推進
- ③学校設定科目、学校行事、特別活動、生徒会活動などの協働体験の充実

2. 2学科7コースの教育課程の実践

- ①コース制の編成とそれぞれの教育課程の検証と改善
- ②進路並びにキャリア支援につながる教育課程の推進

3.環境変化(高大接続改革)を活かした進学実績の向上

- ①授業実践力の向上
- ②探究活動、課題解決型学習(PBL)の充実
- ③大学や企業・地域の力を活用した魅力ある教育づくりの推進
- ④グローバル社会に対応する語学教育の充実

4.男女共同参画社会における女子教育メソッドの構築

- ①レジリエンスを高める現代版女子教育の推進と発信

5.国際理解教育の立案と推進

- ①留学、海外研修プログラムの検証と実行
- ②ICT器機を活用した国際交流プログラムの推進

6.特別な指導や支援が必要な生徒への組織的対応

- ①発達障害をもつ生徒への理解と支援
- ②不登校生徒への支援
- ③外国語を母語とする生徒の支援
- ④家庭環境に課題を抱える生徒への支援
- ⑤教職員の研修と専門性の向上



7. 高大連携(学園内交流)の推進

- ① 高大連携協議会を通じて、教育活動における維持・発展をはかる
- ② 地域交流センター、ボランティアセンター、国際交流センターとの連携をはかり、地域学校協働活動を展開する
- ③ 高大入試協議会を通じて、安定的・発展的な互恵関係を推進する
- ④ 大学生の実習、研究に関わる支援

8. 教職員の持続的な成長を支える組織や文化の形成

- ① 働き方改革の実効性を高める環境整備
- ② 教職員同士が学び合い、コミュニケーションを取り合う学内研修の実施
- ③ 教職員一人ひとりのオーナーシップを育むエンパワーメント型研修の実施

9. 教育環境の整備

- ① 安全、快適な学校施設の検証と整備
- ② 防犯、防災対策の検証と危機管理マニュアルの整備
- ③ 防災教育の推進

10. 募集対策の強化

- ① 女子高校としての魅力ある特色の発信、広報活動の充実化
- ② 中学校訪問での科・コース等の特色、常盤奨学金制度、神戸常盤大学との連携、進路の状況等の広報の強化
- ③ 各中学校での進路講話への参加と中学生の本校訪問の拡大
- ④ 塾への訪問説明
- ⑤ 中学生保護者、中学教員を意識した広報活動の展開





学校法人 玉田学園

神戸常盤大学

〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2

神戸常盤女子高等学校

〒653-0824 神戸市長田区池田上町92

神戸常盤大学附属

ときわ幼稚園

〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2
